

特別活動研究委員会

1, 研究テーマ

「主体的に、こころ豊かな人間関係を深める学級活動のあり方
- 対人関係ゲームを取り入れた学級集団作りを通して - 」

2, 研究課題

特別活動の展開には、特別活動の特質及び方法原理であるところの「望ましい集団活動」が重要となる。児童・生徒はその活動を通して、自己を生かす力、他と共に生きる力、自ら問題を解決する態度などを身につけていく。授業校の須坂小学校は『本立ちて道生ず』の建学の精神に基づき、「多くの友だちとかかわり合いながら、切磋琢磨していく子ども、目標に向かって努力を続ける子ども」を願い教育活動に取り組んでいる。そこで特別活動における課題を、望ましい人間関係をいかに育てていくかとし、そのうえで『対人関係ゲーム』に求め、授業校で以下の点から研究を推進していただいた。

- (1) 学級の人間関係のとらえ(Q・U・観察法からのアセスメント)
- (2) 学級活動で育てる力
- (3) こころ豊かな人間関係の深まり
安心して自己開示ができる集団づくり
認め合いが生む自尊感情
- (4) 人間関係づくりに視点をあてた学級活動のカリキュラム
- (5) 主体性を育てる学級活動の支援

3, 指導の実際

< 実証授業 >

平成17年10月12日(水)

須坂小学校 4年竹組

授業者 田原裕子教諭

単元名 「遊びまくりの会 をやろう」

指導者 小林みさ枝先生(長野教育事務所教育支援主事)

編成後の学級開きより対人関係ゲームを計画的に実施し、和やかな関係づくりが進められた。学級生活に満足している児童が大半を占めているなかで、集団に緊張感を持つ児童が少なからずいた。仲間からメッセージを寄せてもらう活動を通し、あるがままの自分での安心感や自分の良さを見つめられたことから自尊感情の高まりが得られ、こうした緊張感が改善されてきた。

実証授業では、主体的に人間関係を深めることができる児童を願い、役割を意識し社会的なスキルの高まりをねらった『くまがり』を、自分達の力で運営する活動を展開した。運動会での頑張りに対する活動を、学級で組織されている会社が企画し推進するものである。始めの会からゲームの実施、実施中のトラブルの解決、まとめの会

などの総ての進行を児童の力で行った。リーダーを務めた児童はもちろん、どの児童の顔にも満足な表情があった。授業者は児童の活動を見守り、個への関わりやまとめの際の方向付けを的確に行い、児童の主体的な力を引き出し高めていった。

4、事例から明らかになったこと

(1) 学級の人間関係のとらえ(Q-U・観察法からのアセスメント)

教師の日常観察や面談に客観的なQ-Uの結果を重ねて、学級の人間関係を把握し分析した。このことから教師が学習のねらいを焦点化できたり、定期的な実施から活動の効果を評価したりすることができた。

(2) 学級活動で育てる力

学級活動では、自己を生かす能力(心身の調和と個性の伸長)、他と共に生きる喜び(集団の一員としての自覚、協力してよりよい生活を築こうとする態度)、自ら問題を解決する態度(自主的・実践的態度)と方向付けた。そしててだてとして対人関係ゲームを決め出し、計画的・継続的に取り組んだ。児童がかかわり合う活動から、個と集団の成長が見られ、対人関係ゲームの効果が実感できた。

(3) こころ豊かな人間関係の深まり(事前授業より)

安心して自己開示ができる集団づくり

自己を表出ながらかかわり合うためには、個が集団に受け入れられる資質を生み出すことが必要である。対人関係ゲームをてがかりにした集団の育ちが見られた。

認め合いが生む自尊感情

認め合う活動を仕組むことにより、自己の存在感、効力感、有用感、好意感など自尊感情に繋がる心情が得られてきた。このことは仲間の良さを認める心情に発展することが期待できる。

(4) 人間関係づくりに視点をあてた学級活動のカリキュラム

学級活動の年間指導計画に対人関係ゲームを位置づけ、計画的に取り組んできた。そのことから、仲間の良さを感じ合い、協力し合える集団づくりが図られた。

(5) 主体性を育てる学級活動の支援(実証授業より)

主体性を育てるための支援を、学習活動のプロセス、学習内容の設定、活動のサイクルの面から考えた。授業では、児童で組織された会社(係)の力で活動のすべてを推進し、その姿や協力して楽しめた児童の姿は役割を意識し充実していた。授業展開における支援のあり方、また主体性を育てる授業者の支援の仕方について、授業における児童の主体性の高まりから検証することができた。

5、来年度への課題

(1) 人間関係づくりを学級活動で進めていくことは学級の基盤として大切である。しかしながら学級活動の時数には限りがある。短学活の活用や総合的な学習などとの横断的なカリキュラムを編成しながら進めていくことが望ましい。

(2) 人間関係づくりに焦点をあてて編成した学級活動のカリキュラムを参考にして、各校の取り組みから実践研究を進めていきたい。